



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第59号

2012年9月9日

社叢インストラクター養成セミナー

植生調査など社叢を知る基礎知識を習得

10月20日・21日に京都の社叢で

社叢学会では、地域の財産である社叢について詳しく調べ、その貴重性や現状を熟知し、保護し管理することができる「社叢インストラクター」の養成と資格認定を行ってきたが、今年度も下記の通り、第8回社叢インストラクター養成セミナーを開催する。

昨年度から、本セミナーを修了していなくても社叢インストラクター資格認定試験を受験できるようになったが、今回はさらに受講者の負担軽減のために、日程を2日間とし、どちらか1日だけの受講もできることにした。

社叢インストラクター資格取得には、定例研究会の参加などによる、さらなる知識の習得と経験が必要となるが、本セミナーはまず第1歩として、基礎知識の習得を目指すもので、特に社叢を知る

第1歩となる植生調査実習は、習得・経験できる場が少ないことから、本セミナーは得難い機会となる。また、必ずしも資格取得を目指してなくても、森林の構造や調査の仕方を知ることが、自然観察の場においても大いに役立つだろう。

受講資格：社叢学会会員であること

受講料：正・賛助・協力会員＝1日5,000円 市民会員＝1日6,000円(テキスト・昼食代含む)

定員：15人(3人に満たない場合は中止)

申込み：社叢学会HPに記載の出願用紙に記入し、事務局(604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号)あてに郵送 ※ 用紙は事務局にご連絡くだされば郵送いたします

※ 宿泊については各自でお取りください。なお、伏見稲荷大社参集殿でも宿泊できます。

10月20日(土) 於：伏見稲荷大社		
9:50	参集殿前集合 10:00～ 正式参拝とスケジュール等の説明	
10:30～11:30	講義：社叢の歴史	井上満郎・社叢学会理事(京都産業大学名誉教授)
11:30～12:30	講義：稲荷山の植生の成り立ち	菅沼孝之・社叢学会副理事長 (元奈良女子大学教授)
13:15～16:30	実習：稲荷山で植生を調査 演習：稲荷山の植生はどうあるべきか	
10月21日(日) 於：向日神社(阪急京都線西向日駅徒歩10分)		
10:00～11:00	森林とは、森林の構造	渡辺弘之・社叢学会理事(京都大学名誉教授)
11:10～12:10	向日神社社叢保全の取り組み	上田昌弘・社叢学会理事(鎮守の森の会会長)
13:00～14:00	講義：森林保全と社叢管理	前迫ゆり・社叢インストラクター(大阪産業大学教授)
14:10～16:30	実習：社叢調査	渡辺弘之・前迫ゆり



被災地社叢の現況調査を終えて～

講師：菅沼孝之(社叢学会副理事長・元奈良女子大学教授)

コメンター：糸谷正俊(社叢学会理事)

スギは塩に弱い 震災後1年以上経っており、枯れるものは枯れ、生きてるものは緑の葉を広げているという状態だった。閑上浜の近くでクロマツがそびえて緑の葉をしているのを見たが、有名な高田の一本松のように長時間塩水に浸かったものはもたない。

大船渡湾の突き出たところには神社があちこちにあるが、植生が荒廃しているという状態だ。頂上にある神社では落葉樹であるサクラが結構多く、その他はスギで、他の神社でも常緑樹というのだいたいスギで、こんもりしてるのはスギの林だった。

天照御祖神社(陸前高田市)は高い所にあるので、樹林が茂っている。神社を囲うように植えたもので、やはりスギが一番多いが、モミなどの常緑樹、ナツツバキ、ツツジやシイなどが、宮司の力の入れ方が並々ならぬものだということがわかる。

今泉天満宮のスギは非常に大きなものだが、湾になっていて津波が押し寄せ、かなり高い所まで来たようだ。石材などが流されているのを見ると、かなり強い波が押し寄せてきたということがわかり、ゴムホースを登らせて下に水タンクを置いて、水をかけて塩水を洗い流したということだが、結果としては枯れて蘇生しなかったという状態だ。案外、草本類は強いもの多くて、ササなどは完全にやられているが、タケなどは、また復活している。

周囲の塩水がかかったスギ林は全部茶色になっていて、スギは非常に塩に弱いということを実感した。同じ所にあつてイヌツゲだと思いが、これは潮をかぶったと思われるが生き残っている。こうしたことを見ると、これからの植栽をよく考えていかなければならないのではないかと思う。津波を完全に防ぐことはなかなか難しいのだから、津波に強い植栽を考えたほうがよいだろう。

熊野神社は山の頂上にあり、マツやモミジなど非常に大きな木が多くある。下の方にはマツが周囲にずっと巡らされている。村が低い所にあるので大きな被害にあつたが、この神社はほとんど被害もなく、樹木が育っていた。ここにもスギが植わっていて、周囲にアカマツ、サクラが植えられている。アカマツはクロマツと違って塩に弱いのだが、ここは山の上だから支障はなかったようだ。また、非常に大きな天然記念物カヤの木を見ることができる。

社叢復興には樹種の選定が重要 被災神社では神社本庁と日本財団によって、みんなの鎮守の森を作ろうという取り組みが始まっているところもある。宮脇昭氏の指導により、7mばかりの土塁を盛り、そこに様々な樹種の木を植えている。2～3年後にどうなっているのか、大きくなって木も、また、だめになって木もあるのではないかと思う。なかでもタブの木は、調査に同行してくれた内藤俊彦氏(元東北大学植物園助手)によると、砂地ではなく、土でないのだめだということだ。確かに、海岸でも岩があつて土が盛り上がったような所にタブの木が生えていて、樹木の生育には困難だという印象を持つような所でないで育たない。また、ニセアカシアはどんどん伸びていって他のものを圧倒してしまうので、注意を要するだろう。さらに、サカキは無理だが、ヒサカキなら大丈夫だろうとは思われるが、この土が適しているのかという疑問を持った。

今回、特に津波に重点を置いて見てきて、塩水が植物にどのように影響するのか、塩水に強い樹種と弱い樹種がある、ということがわかった。では今後どのようにしていけばよいのだろうか。北の方に行くほど、樹種に限られてくるが、成長は遅いがアスナロのような木を植えていくことができればよいだろうと思った。スギもよいのだが、何度も繰り返しているように、塩水には非常に弱いので、山の高いところに植える必要があるだろう。これまで、クロマツを海岸に植えるということに対して、クロマツばかりにしてどうするのだ、という思いを持っていたが、今回、実際クロマツは塩には強く、海岸林にふさわしい樹種だということがよくわかった。



今泉天満宮の大スギ



海と山をつなぐ繋ぐ神みち

—浜下り神事—

講師：茂木 栄（社叢学会理事・國學院大學教授）

(1) 東日本大震災の被災地・岩手県釜石市「鶴住居（うのすまい）の寺」常楽寺の話

柳田國男『雪国の春』より常楽寺の記述：「私は東北の大津波から二十五年の後に、其惨害の最も甚だしかつた上閉伊の或村に行つて、村の寺の本堂に掲げられて居る数多くの掛額を見た。繪馬とは別のものと見られて居るが、此繪の中には親子夫婦、明るい室に坐して茶を飲んだり、仲睦まじく顔を見合せて居る圖が多く、それがすべて皆この災厄にあつて死に別れ、生き残つた人々の上げたものであつた」（『板繪沿革』より）。

今から91年前、大正9年の夏、柳田國男は立ち寄つた釜石の海岸に近い村の寺、「常楽寺」の本堂に掲げられていた供養絵の額を見た。それは、明治29年の津波で亡くなった家族を供養するために、近親者が奉納したものである。柳田は、津波絵馬の感想を、「不幸なる人々は其記憶を、新たにもすれば又美しくもした。誠に人間らしい悲しみやうである」（『豆手帖から』）と記している。

明治29年6月15日夜半におきた大津波は、綾里湾での波高は30mもあり、釜石・鶴住居・唐丹の人口の過半数にのぼる6,724人の命を奪つた。鶴住居村の死者は、1,061人で両石集落は全滅した（『角川日本地名大辞典』3岩手県）。常楽寺には、明治29年の津波による犠牲者の慰霊石碑が建立されていたが、今度の津波で流され、まだ見つかっていないという。

常楽寺は、江戸初期に創建された曹洞宗の古刹である。現在の檀家は約1,400軒で、今回の大津波で約1,000軒の檀家が被災して430人が亡くなられた。震災当日、九州に出かけられていたご住職が帰郷されて目にされたのは、湖底に沈んだかのようなムラ、鶴住居川に一列にギッシリ詰まった車、車中には運転していた人々、忘れられない光景という。ご住職は、檀家の方々の身元確認をし、半年間で500人もの方の葬儀をされたそうである。海岸は近い（約2km）が、堤防で海の様子が見えず、いったん逃げた人も戻り、第二波の津波にさらわれてしまった方もあり、津波を経験していない60～70代の方が多く亡くなられたそうである。

釜石市の死者・行方不明者は1,200人余、その半数近くを占めているのが、鶴住居の人たちである。拠点避難所まで、津波に飲み込まれてしまった。ただ、大槌湾近くの鶴住居小学校の児童350人は、高台に自

主的に非難し全員無事だったのが救いであるとの住職の話であった。このことは群馬大学の先生がおこなつた津波防災教育の成果として、後に奇蹟的な話として全国的に有名になつた。しかし、鶴住居の常楽寺には津波供養絵馬が奉納されていたことでも知られていた寺であつた。鶴住居には津波防災教育を受け入れる文化風土はあつたが、60代～70代の住民に危機意識が共有されていなかったということであつた。

(2) 海と山を繋ぐ神みち（山宮・里宮・浜宮）—浜下り神事—

「森と海のつながり」が、最近注目を集めている。研究書の刊行も相継いでいる。水を通して森は海を豊かにしているという考え方である。全国各地で、「漁民の森づくり活動」として漁業者が組織的に植林を行うなど、漁民による植林運動の草分け的存在である畠山重篤氏の「森は海の恋人」植林運動の理念が大きな影響を与えてきた。しかし畠山氏の「水山養殖場」はすべて流されてしまった。

畠山氏が、気仙沼湾に流れ込む大川の水源地、室根山への植林を思いつき、実行に移すことができたのは、閏年の翌年に旧暦9月19日の室根の神様の鎮座日に因んで行われる室根神社特別大祭という盛大な祭りがあり、海側奉仕者の神役一族の一人として、唐桑半島沖の海水を汲み上げ、室根山の山宮に海水を奉納してきた経験があつたからであるという。唐桑半島の早馬神社では室根神社の祭の折に浜下りを行なっていた。一般に、浜下り神事は、山の神の去来伝承をベースに、春、里宮から浜に降る神幸祭の形をとり、浜に祭場を設け、神輿を安置し、神役が潮を汲み上げ、神前に奉納し、種々の芸能が演じられる。岩手県気仙地方から宮城県、福島県、茨城県の太平洋沿岸は、浜下り神事、浜くだり神事、浜垢離（はまごり）神事などの名称で山と海を結ぶ祭りが伝承されている。民俗的祭祀として、山と浜は神の道で繋がれていた。今回大きな原発事故を含め大きな被害を受けた福島県浜通り地方は浜下り神事が濃厚に分布している地域であつた。

この海と山の絆を顕在化させ、今後の災害防止や被害の軽減に役立つ原理の提言に向けた方向性を示した発表であつた。

(文責・渡邊節子)

東日本大震災 被災地の社叢実態調査と アンケート調査を実施

社叢学会では、昨年度より引き続き東日本大震災被災地における社叢復興に取り組んでいるが、5月にはアンケート調査を、7月には被災地における社叢の実態調査を実施した。

アンケート調査は、昨年8月に実施した聞き取り調査で、多くの神社・社叢が被災直後から多様な防災機能を果たしたことがわかったことから、被災状況と社叢(神社)が果たした役割について広範囲なデータを取得し、社叢の防災機能を広く情報発信することを目的に、宮城県・岩手県の365社に郵送、福島県については神社庁を通じて配布。目下、回収を終えて分析作業に入っている。

現地調査は7月4日～7日に実施、東北地方の植生に詳しい内藤俊彦氏と共に、菅沼孝之副理事長、渡辺弘之理事、社叢インストラクターなどが、(1)被災地において、比較的良好な社叢環境を維持していると思われる社叢 (2)火災の影響を受け、今後継続観察が必要と思われる社叢 (3)津波の影響を受け、今後継続観察が必要と思われる社叢 (4)被災時に社叢地避難などのエピソードがあり、今後保全策が必要と思われる社叢 (5)昨年度土壌改良を実施し、今年度継続観察が必要と思われる社叢を重点的に調査、社叢の現況を記録した。

事務局から

- 関西定例研究会につきまして、これまでは奇数月第4土曜日に開催してまいりましたが、第3もしくは第5土曜に変更することもあります。以後、開催日にご注意ください。
- 下記の通り、『社叢学研究』11号への投稿を募集しています。社叢学会は日本学術会議協力学術研究団体に指定されております。研究者の業績評価にもつながりますので、ぜひ、ご投稿ください。また、論文のみならず、身近な活動などの報告も、お寄せください。

編集後記

フェンシングや女子サッカーや冬のカーリングや、密かな深夜の楽しみだった“マイナー”競技(てか、今度の五輪は深夜がメイン時間帯だったんだけど。。。)が、すっかりメジャーに。。。ワタシって先見の明が、、、あつたらこんなココ(!)で働いてねえよ!

それにしても、女子トライアスロンのゴール前の、正にデッドヒートすごかったなあ。。。だって、52^{キロ}を泳いだり漕いだり走ったりの最後だよ。ボルトさん! 見習って最後まで脱力せずに走りなさい!! (藤岡 郁)

次回予告【第52回関西定例研究会】

- ◆日 時：2012年9月29日(土) 13:30～15:30
- ◆場 所：法然院本坊(左京区鹿ヶ谷御所ノ段町30 Tel 075-771-2420)
- ◆講 師：久山 慶子(フィールドソサイエティ・法然院森のセンター事務局長・京都府立林業大学校客員教授)
- ◆森案内：久山 喜久雄(フィールドソサイエティ・法然院森のセンター代表)
- ◆テーマ：森のセンターの活動と善気山の保全
- ◆J-ディネー：渡辺弘之(社叢学会理事)

掲 示 板

『原稿募集!』

『社叢学研究』第11号への投稿：論文、研究ノート、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告」(右記参照)を募集いたします。締め切りは、いずれも10月31日(水)必着。

* 書評欄では会員の皆さまの著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい。

「鎮守の森の活動報告」

祭、音楽会、調査などの活動、抱える問題点などを1,200字程度でご報告下さい。手書きでも結構です。写真やイラストなども、お添え下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL075-212-2973 FAX075-212-2916
URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com

(当面、このアドレスでお願いいたします)